

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	国語	科目	国語演習（基礎）	単位数	2
対象学年・組	3 学年選択				
教科担任	森田 佐久間				
教科書・副教材	国語必携パーフェクト演習「尚文出版」				
1. 目標					
① 言語能力（漢字・ことば）の基礎・基本を定着させる。 ② 進路活動に向けて、試験や面接に対応する能力を身につける。 ③ 論旨を整理して文章を書く能力を身につける。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	・漢字の読み書き、ことわざ ・原稿用紙の使い方、小論文	・テーマをもとに作文を書き、原稿用紙の使い方について、自身が正確な知識を持ち、実践できているかを確認する。	4	
	5	・漢字の読み書き、ことわざ ・原稿用紙の使い方、小論文	・漢字の読み書きやことわざを学び、語彙を豊かにする。 ・作文と小論文の違いを理解し、適切な原稿用紙の使い方を習得する。	4	
	6	・漢字の読み書き、ことわざ ・段落構成、書き言葉	・書き言葉と話し言葉の違いを理解し、段落構成を意識させた、小論文の記入法を指導する。	6	
	7	一般常識問題、就職試験対応問題、小論文指導	・自分の進路に合わせたテーマ・課題に従って、具体的に記述練習することで就職試験に備えた力を身につけさせる。	2	
	1 学期予定授業時数				16
2 学期	9	一般常識問題、就職試験対応問題、小論文指導	・自分の進路に合わせたテーマ・課題に従って、具体的に記述練習することで就職試験に備えた力を身につけさせる。	6	
	10			6	
	11	・漢字の読み書き、ことわざ ・手紙の書き方	・漢字の読み書きやことわざを学び、語彙を豊かにする。 ・手紙の書き方や、社会人として必要な一般常識を身	8	
	12	・敬語表現	・敬語表現について学び、社会人として必要な一般常識を身に付けさせる。	2	
	2 学期予定授業時数				24
3 学期	1	・漢字の読み書きことわざ ・連絡文の書き方	・漢字の読み書きやことわざを学び、語彙を豊かにする。 ・状況に即した文章の書き方を実践的に身に付けさせ	6	
	2			6	
	3			4	
	3 学期予定授業時数				16
年間授業時数合計				56	
3. 評価の観点及び方法					
(1) 小テスト (2) 提出物 (3) 授業態度 ①発言 ②参加 ③出席状況					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	地理歴史	科目	近現代史と人間の生き方	単位数	2
対象学年・組	3学年 選択者(A・B・E・F・G組)				
教科担任	南山 道造				
教科書・副教材	明解世界史A(帝国書院)				
1. 目標					
1 18世紀の産業革命以降の歴史を詳しく学習し、その中で形成された人間の生き方について考える。 2 先史時代から現代に至る大きな歴史の事実に基づいて、現代の人間の生き方の特質を考察する。 3 これから社会に出ていくにあたり、職業や人生の諸課題について主体的に考えようとする自覚をもつ。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	○オリエンテーション	○授業の授業の目標と内容、評価について ○探究テーマの設定	4	
	5	○ヨーロッパの近代化と人間の生き方	○アメリカ独立革命 ○フランス革命 ○ナポレオンの生き方	6	
	6	○ヨーロッパの近代化と人間の生き方	○産業革命が人々の生活や生き方に与えた影響について考察する。	10	
	7	○ヨーロッパの近代化と人間の生き方	○19世紀アメリカの人々の動き ○南北戦争とリンカン	4	
	1学期予定授業時数				22
2 学期	9	○現在につながる社会の形成と人間の生き方	○大衆社会の出現 ○大量消費と人間に関し、考察する。	8	
	10	○世界分割と列強の対立	○列強による分割の動向。明治維新前後の混乱期に活躍した人たちの生き方。	8	
	11	○世界大戦と戦間期	○世界大戦と総力戦にまきこまれる人間。 ○戦時下の人々の体験。	8	
	12	○米ソ対立と冷戦	○米ソ冷戦の成立と展開を学び、その結果生じる国際秩序の形成と変容について考察する。	4	
	2学期予定授業時数				26
3 学期	1	○冷戦終結への道のり	○冷戦後のグローバル化の進行を理解し、その結果生じる明るい面と暗い面を考察する。	6	
	2	○地球社会へ	○地球的規模の課題や、知識基盤社会に向けて、一人ひとりがどう生きるべきか考察する。	4	
	3				
	3学期予定授業時数				10
年間授業時数合計				62	
3. 評価の観点及び方法					
①思考・判断・表現…疑問や問題に対して考察し、論理的・多角的に論じることができたか。 ②主体的に学習に取り組む態度…課題に積極的に取り組んだか。提出物を適切に提出できたか。 講義をしっかりと聴き、適切にノートをとることができたか。 ③知識・技能…世界の近現代史の諸々の事件や出来事について、適切に理解できているか。(定期考査)					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	地歴	科目	地理A	単位数	2
対象学年・組	3学年 選択				
教科担任	前川 信雄				
教科書・副教材	○教科書 帝国書院「新地理A」 ○地図帳 二宮書店「詳解現代地図」				
1. 目標					
<p>◎社会的事象に関して、地理的な見方や考え方ができるように学習を深める。</p> <p>◎現代世界の諸課題について学習し、地域性や歴史的な背景。日常生活との関連も踏まえて、考える力を養う。</p> <p>◎国際社会に主体的に生きる、日本国民としての自覚と資質を培う。</p>					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	地球上の位置と国家	○地球の自転と公転 季節の変化 ○緯度と経度 ○球面と平面の世界 ○国家の領域 ○国境と領土問題	5	
	5	グローバル化が進む世界	○結びつきを強める世界 ○世界の交通・通信 ○拡大する貿易	7	
	6	人間生活を取り巻く環境	○自然環境 ～地形 ○人々の生活と気候	8	
	7	人々の生活と産業・文化	○世界の農業 ○世界の工業 ○生活と宗教・文化	5	
	1学期予定授業時数				25
2 学期	9	世界の諸地域の生活・文化①	○中国の自然環境 ○中国の歴史と社会 ○中国の産業 ○東南アジアの自然と生活・文化	8	
	10	世界の諸地域の生活・文化②	○インドの自然と生活・文化 ○アフリカの自然と生活・文化	8	
	11	世界の諸地域の生活・文化③	○ヨーロッパの自然と生活・文化 ○ヨーロッパの統合と課題	8	
	12	世界の諸地域の生活文化④	○アメリカ合衆国の自然と生活・文化 ○先端技術産業と様々な課題	5	
	2学期予定授業時数				29
3 学期	1	世界の諸地域の生活・文化⑤	○ラテンアメリカとオセアニアの自然と生活・文化	6	
	2	地球的な課題	○様々な環境問題 ○資源エネルギー問題 ○世界の人口問題	4	
	3				
	3学期予定授業時数				10
年間授業時数合計				64	

### 3. 評価の観点及び方法

- ①授業態度 : 疑問や問題に対して考察し、積極的に発言したか。  
 ②課題作業 : 課題プリントにしっかりと取り組んだか。  
 ③ノート : 講義をきちんと聞き、整理することができたか。  
 ④提出物 ⑤定期考査 ⑥時事問題 発表

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2
対象学年・組	3年選択				
教科担任	小森 隆史				
教科書・副教材	最新 現代社会 新訂版 (実教出版)				
1. 目標					
1. 多面的・多角的に考察しようとする態度と、公正で客観的な見方や考え方に立って、国際的な視野を育てる。 2. 現代社会を主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方について自覚を育てる。 3. 現代社会における倫理、文化、政治、法や経済などについての理解と認識を深め、平和で民主的な人間として必要な自覚と資質を養う。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	オリエンテーション 1-1 地球環境問題	環境問題解決に向けて我々が取り組むべきこと、次世代の為に果たすべき使命について考察し、ディスカッション等を通じて意見の共有と精錬を図る。	6	
	5	1-2 資源エネルギー問題	資源に関する現状と日本の立場について理解させ、課題について考察し、ディスカッション等を通じて意見の共有と精錬を図る。	8	
	6	1-3 生命科学と情報技術の課題	科学技術の発達が私たちの生活に与えている影響について考察させる。視聴覚教材を通じて自己の課題と結びつける。	10	
	7	2(1)-1 自分らしく生きる 2(1)-2 人間としてよく生きる 2(1)-3 日本人としての感覚	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。	6	
	1学期予定授業時数				30
2 学期	9	2(2)-1 現代国家と民主政治 2(2)-2 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させる。主体的に社会と関わろうとする姿勢を身に付けさせる。	8	
	10	2(2)-2 日本国憲法の基本的性格 2(2)-3 日本の政治機構と政治	民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。	10	
	11	2(3)-1 現代の経済社会	経済社会について、様々な角度から理解を深め、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。また、選択する進路に応じた消費者教育を実践する。	8	
	12	2(3)-2 日本経済の特質と国民生活	イノベーションと環境問題など、経済や生活の発展と現代が抱える課題を結びつけて考察させる。	6	
2学期予定授業時数				32	
3 学期	1	2(4)-1 国際政治の動向 2(4)-2 国際経済の動向と国際協力	国際社会における貧困や格差について理解させ、日本そして日本人の果たすべき役割について考察させる。	8	
	2				
	3				
	3学期予定授業時数				8
年間授業時数合計				70	
3. 評価の観点及び方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(出席状況、授業中の発言など)</li> <li>・提出物(レポート、プリントなど)</li> <li>・授業内小テスト</li> </ul>					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4
対象学年・組	3年選択				
教科担任	廣森 朝子				
教科書・副教材	教科書:新編数学Ⅲ(東京書籍) 副教材:アシストセレクト新編数学Ⅲ(東京書籍)				
1. 目標					
①高校数学における基礎学力を定着させる。特に、計算力の向上を図る。 ②1人でも多くの生徒が数学に興味・関心を持つように、ICT機器を活用する。 ③大学への進学を希望する生徒への教科指導を充実させる。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	○関数 ○数列の極限	○分数関数, 無理関数, 逆関数, 合成関数 ○ $r^n$ の極限, 無限級数	16	
	5	○関数の極限 ○中間考査および解説 ○微分法	○関数の極限, 関数の連続性 ○導関数, 積・商の微分法, 合成関数の微分法	16	
	6	○いろいろな関数の導関数	○三角関数・指数関数・対数関数の導関数 ○高次導関数	16	
	7	○接線, 関数の増減 ○期末考査および解説	○接線の方程式 ○関数の増減, 極大・極小	10	
	1学期予定授業時数				58
2 学期	9	○接線, 関数の増減 ○いろいろな微分の応用	○第2次導関数とグラフ ○関数の最大・最小	18	
	10	○いろいろな微分の応用 ○中間考査および解説 ○不定積分	○方程式・不等式への応用 ○置換積分法, 部分積分法	18	
	11	○定積分 ○定積分の応用	○定積分の置換積分法, 部分積分法 ○面積	18	
	12	○定積分の応用 ○期末考査および解説	○体積 ○曲線の長さ	10	
	2学期予定授業時数				64
3 学期	1	○定積分の応用 ○学年末考査	○定積分と区分求積法	18	
	2				
	3				
	3学期予定授業時数				18
年間授業時数合計				140	
3. 評価の観点及び方法					
評価の観点 : 技能, 意欲・態度 評価の方位 : 定期考査の成績, 提出物, 小テスト, 学習態度					

# 令和5度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	数学	科目	数学基礎演習	単位数	2
対象学年・組	3年選択				
教科担任	川畑 文人				
教科書 ・ 副教材	使用教材: 高校生の基礎数学トレーニング				
1. 目標					
①今までの数学の復習をしながら基礎の定着を図る。 ②一人でも多くの生徒が数学に興味を持ち、数学が日常生活とのかかわりを持っていることを知る。 ③就職試験に向けた就職試験問題の解法					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	数の計算	・実数の演算 ・虫食い算	2	
	5	比率と割合・比例と反比例 文字式・整式の計算	・割合 ・整式の計算	4	
	6	乗法公式・因数分解 無理数の計算 方程式	・因数分解・乗法公式 ・無理数の計算 ・1次方程式、2次方程式、連立方程式	8	
	7	総合演習		2	
	1学期予定授業時数				16
2 学期	9	不等式 関数とグラフ	・1次不等式・連立不等式 ・1次関数・2次関数	8	
	10	図形と角 平行線と線分の比	・いろいろな図形の角度 ・平行線と線分の比	4	
	11	図形の面積・体積 三角比	・いろいろな図形の面積・体積 ・三角比	8	
	12	総合演習		4	
	2学期予定授業時数				24
3 学期	1	集合と要素 場合の数と確率	・集合 ・場合の数 ・確率	4	
	2				
	3				
	3学期予定授業時数				4
年間授業時数合計				44	
3. 評価の観点及び方法					
評価の観点: 技能、意欲、態度 評価の方法: 定期考査の成績、提出物、小テスト、学習態度					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	理科	科目	物理演習	単位数	2
対象学年・組	第3学年 選択者(A,G)				
教科担任	鈴木 かな				
教科書 ・ 副教材					
1. 目標					
1、日常生活と物理との関連性に気付き、物理を学習する意義を理解させる。 2、予想、実験、考察という科学的な考え方を定着させる。 3、平面内を運動する物体の運動について理解させる。 4、電気や磁気に関する基本的な概念や法則を系統的に理解させる。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	剛体に働く力、平面の運動	・力のつり合いと合成 ・力のモーメント ・運動の法則	8	
	5	放物運動、円運動	・斜方投射 ・空気抵抗がある場合の運動 ・等速円運動	12	
	6	運動量、万有引力	・運動量と力積 ・ケプラーの法則	16	
	7	単振動	・振り子	8	
	1学期予定授業時数				44
2 学期	9	静電気、電場	・電気量保存の法則 ・クーロンの法則 ・ガウスの法則	16	
	10	電位、電場の中の物体、コンデンサー	・静電気力による位置エネルギー ・コンデンサーの直列、並列	16	
	11	電流、直流回路、磁場	・オームの法則 ・キルヒホッフの法則 ・磁場	16	
	12	磁場、電磁誘導	・電流の作る磁場 ・ローレンツ力	12	
	2学期予定授業時数				60
3 学期	1	電磁誘導	・誘導起電力 ・自己誘導と相互誘導 ・モーターの仕組み	12	
	2	交流、電磁波	・直流と交流 ・様々な電磁波 ・電磁波の利用	12	
	3	総まとめ	・物理のまとめ	12	
	3学期予定授業時数				36
年間授業時数合計				140	
3. 評価の観点及び方法					
(1)授業態度 教員の問いかけに答えるなど、積極的に授業に参加しているか。提出物を期限内に提出しているか					
(2)定期考査					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	保健体育		科目	生涯スポーツ		単位数	2
対象学年・組	3学年						
教科担任	本多・池上						
教科書・副教材							
1. 目標							
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わえるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をお高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p>							
2. 学習内容と学習上の留意点							
学期	月	単元	学習の内容・留意点			予定時数	
1 学期	4	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			4	
	5	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			6	
	6	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			8	
	7	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			4	
	1学期予定授業時数					22	
2 学期	9	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			8	
	10	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			6	
	11	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			8	
	12	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			4	
	2学期予定授業時数					26	
3 学期	1	球技(ネット型、ゴール型) 器械運動(マット運動) 陸上競技(競走、投てき)	球技(バレーボール、テニス、インディアカ、アルティメット) 器械運動(マット運動として単独技、連続技) 陸上競技(中距離走、短距離走、やり投げ)			4	
	2						
	3						
	3学期予定授業時数					4	
年間授業時数合計						52	
3. 評価の観点及び方法							
<p>各種目に主体的・意欲的に取り組んでいるか。 目標としている技能を身につけているか。 安全に留意して活動できているか。</p>							

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	英語	科目	英語演習Ⅱ	単位数	2
対象学年・組	第3学年(選択)				
教科担任	友金 藍子				
教科書・副教材	使用教科書: Vista English Communication I (三省堂) 使用教材: Springboard to English-基礎から学ぶ「長文+文法」15題-(数研出版)				
1. 目標 1. 英文の内容を理解する。 2. 文法事項を理解する。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	Lesson 1	内容・表現の理解 be動詞(am, are, is /was, were)	2	
	5	Lesson 2	内容・表現の理解 一般動詞(現在)	6	
	6	Lesson 3, 4	内容・表現の理解 一般動詞(過去), 進行形・未来を表す文,	6	
	7	Lesson 5	内容・表現の理解 「～になる」「(人)に(物)を与える」「AをBにする」	2	
	1学期予定授業時数				16
2 学期	9	Lesson 6, 7	内容・表現の理解 〈to+動詞の原形(不定詞)、～ing「～すること」(動名詞)〉	8	
	10	Lesson 8, 9	内容・表現の理解, 比較, 受け身	6	
	11	Lesson 10, 11	内容・表現の理解 現在完了〈have [has] +過去分詞〉	6	
	12	Lesson 12	内容・表現の理解, 関係代名詞〈who, which, that〉	2	
	2学期予定授業時数				22
3 学期	1	Lesson 13	内容・表現の理解, 接続語 (and, but, or/when, if等)	4	
	2				
	3				
	3学期予定授業時数				4
年間授業時数合計				42	
3. 評価の観点及び方法 学習内容の理解度・表現力・提出物・学習態度・定期テスト等で総合判断					

# 令和5年度 年間授業計画

都立多摩工科高等学校

教科	家庭	科目	選択 生活実践	単位数	2
対象学年・組	3年自由選択				
教科担任	石原久仁子				
教科書 ・ 副教材	新版 家庭基礎（家基320）第一学習社				
1. 目標					
<p>実践的に学び、ものづくりに携わる力をつける。また、生活に関する実践力をもつことで、将来の自立を円滑にし、且つ、単調になりがちな家庭生活を豊かで協働的なものを目指す。次のことに重点を置く。</p> <p>①自立した生活のための基礎力 ②被服製作・調理実習を通した生活実践力 ③和文化体験を通した生活向上意欲</p>					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単元	学習の内容・留意点	予定時数	
1 学期	4	被服製作	裁断の仕方、ミシンの使い方、手縫いについて学ぶ	2	
	5	被服製作	平面構成、立体構成の2種を作り違いを知る じんべい(上衣と半ズボン)製作 形の理解と裁断	6	
	6	被服製作	じんべい(上衣)製作 ロックミシンの使い方	8	
	7	被服製作	じんべい(半ズボン)製作	4	
	1学期予定授業時数				20
2 学期	9	甚平の仕上げと着装 和文化体験	じんべい製作・仕上げ・着装 茶道としての茶の点てかた	8	
	10	茶道点前 和文化体験	茶道点前を簡易にして生活に取り入れる 季節感を生活に取り入れることを考える	6	
	11	調理実習	和洋・製菓・エスニック調理	8	
	12	調理実習	行事食について 正月料理 混合出汁の取り方と出汁を使う料理	2	
	2学期予定授業時数				24
3 学期	1	調理実習	小麦粉調理の特性・卒業祝い	6	
	2				
	3				
	3学期予定授業時数				6
年間授業時数合計				50	
3. 評価の観点及び方法					
<p>①作品の取り組み状況 ②作品の完成度 ③調理実習の取り組み状況 ④持ち物、準備態勢 ⑤授業ごとの記録レポート⑥提出物 等</p>					

0